

法話

信は仏辺に仰ぐ

お慈悲に包まれている
 安心と喜び
 行信教授講師 藤澤 信照 師
 滋賀県近江市浄光寺住職

み教えを聞くコツ

ご法話の最後に拝読される
 機会の多い「聖人一流章」と
 名づけられた『御文章』
 のはじめに「聖人一流の御勸
 化のおもむきは、信心をもつ
 て本とせられ候ふ」とありま
 す。

このように、「浄土真宗の
 教えの要は信心である」とい
 うことは、浄土真宗のご法話
 を聞いたことがある人なら、
 だれでも知っていることと思
 います。
 とところが、よくよくお聴聞
 を重ねている人でも、「信心
 とはどういうことですか？」
 と聞かれたら、答えに詰まっ
 てしまうということが、意外
 と多いのではないでしょう
 か。
 この信心について、**梯實圓**
 和上が生前、たびたびある先
 哲の言葉を出して、「浄土真宗
 の教えを聞くのには「コツ」
 というのがあるんですよ、と
 教えてくださいました。
 それは「信は仰悲に仰ぎ、

お慈悲は罪悪の機の中に味わ
 う」という言葉です。
 「信心は自分の心の中にさ
 がすのではなく、『必ず救
 う』と仰せになる阿弥陀さま
 の本願招喚のみことばを聞
 き、救いの確かさを仰ぐこと
 です。
 反対に、お慈悲は阿弥陀さま
 の側に仰ぐのではなく、わが
 身の煩惱罪障の中に味わう
 のですよ」とのお示しです。
 梯和上が、この言葉を出し
 て、「これが浄土真宗の教え
 を聞くコツです」とおっしゃ
 ったのは、この言葉とは裏腹
 に、ほとんどの場合は教えを
 聞いていても、信心を自分の
 側にはがして、「信心らしきも
 のはない」と嘆き、反対にお
 慈悲は罪悪深重のわが身の
 ためにあることを忘れて、
 『何があるかたのか』と、
 阿弥陀さまのお慈悲のかたじ
 けなさを喜べないからです。
 浄土真宗の信心は、「他力
 の信心」とか「仏さまよりた
 まわる信心」といわれます。
 それは「聖人一流章」の中
 にも「不可思議の願力として、
 仏のかたより往生は治定せ
 しめたまふ」といわれている
 ように、私たちのほからず
 超えた「すべてのものを必ず
 救う」と誓われた阿弥陀さま
 が、「南無阿弥陀仏(必ずた

すけるぞ、我にまかせよ)」
 とよびたもう救いの確かさを、
 ほれぼれと聞かせていただく
 ほかにはないからです。
 その仰せを聞き受けた私は、
 「南無阿弥陀仏(必ずたすか
 ると、阿弥陀さまにおまかせ
 します)」とお返事させてい
 ただくのです。
 私の殻が破られる
 「信は仏辺に仰ぎ、お慈悲
 は罪悪の機の中に味わう」と
 いう言葉を聞いたとき、「空
 がこんなに青いとほ」とい
 う歌が、私の脳裏によみがえ
 てきました。この歌は、かつ
 てNHK全国音楽コンク
 小学校の部の課題曲として作
 られたもので、作詞家の岩谷
 時子さん(が)が作詞を担
 います。こんな素敵な歌詞で
 知らなかったよ
 空がこんなに青いとほ
 手をつないで歩いて行
 みんなであおいだ空
 ほんとうに青い空
 空は教えてくれた
 大きい心を持つように
 友だちの手を
 はなさぬように
 知らなかつたよ
 空がこんなに青いとほ
 なぜかしら悲しくな
 ひとりで見上げた空
 とつても青い空

空は聞かせてくれた
 風にも負けない雲のうた
 ひとりでも
 もうなかないように
 抜けるような青い空は、思
 わず息をのまれるほどに広く
 大きく感じます。そんな空を
 見上げてみると些細なこと
 いざごさを起こしてしま
 自分の小ささを思い知らされ
 ます。また、空を流れていく
 雲をながめてみると、どんな
 強い風にも負けず、悠々と空
 をかけめぐると強さと柔軟性
 感じられます。
 ともすれば、自信過剰にな
 ってすがるぬぼれてしまつた
 り、逆に自信を失つて殻に閉
 じこもりがちな私たちです。
 そんな時、どこまでも広がる
 空のような大きい心に触れる
 と、私の小さな殻が破れる
 ていきます。
 「南無阿弥陀仏」とお念仏
 を申しつつ、「どんなことが
 あつても、けつしてあなたを
 見捨てはしない」とよび続け
 てくださる阿弥陀さまのお心
 に聞きふれるとき、自分の小
 ささ、愚かさ、弱さに気づか
 されるのと同時に、その広大な
 お慈悲の心につつまれている
 という安心感と喜び、そして
 生きる勇気がわいてくるので
 す。

(本願寺新報 平成29年9月1日号掲載)



教誓寺

法要のお知らせ

秋期彼岸会法要

9月23日(土) 秋分の日

○法要 午後2時より

ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。ご一緒にお経を上げてお勤めいたしましょう

御彼岸の期間は

9月20日(水)～26日(火)です。

報恩講法要

報恩講は、浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事です。宗祖親鸞聖人が一二六二年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。本山では、一月に宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。

教誓寺では、毎年十月の第四日曜日にお勤めして参ります。本年の報恩講も是非お参り下さい。

記

平成29年10月22日(日)

○法要 午後一時より

○法話

午後一時四〇分頃から

講師 本願寺派布教使

静岡東組 長照寺住職

本持 信慈 師

○時間があれば

腹話術などご披露したいと考えております。

○報恩講料理(お斎・昼食)の用意は、午前11時頃から出来ますので、早めにいらして召し上がって下さい。

○来年の浄土真宗カレンダーをお持ち帰り下さい。

○お参りの時には門徒式章を

ご着用下さい。

任職より

秋のお彼岸 報恩講ももうすぐです。

ご法事の後などで御門徒の皆様とお話をする時、「昔はおじいさんと一緒に報恩講にお参りしました」とか「食事がおいしかった」、「雰囲気が好きだった」等とよく伺います。

戦中戦後の一時期には中断していた事もありましたが、以後毎年欠かさずに報恩講をお勤めしています。

どうぞ、久しぶりにお参りにおいでになりますか!

また、一度もおいでになつたことが無い方も、お参りにおいでになりますか!

最近、報恩講にお参りになる方が少なくなっています。

これも時代の変化なのかと思いつつも、任職の力不足と反省しております。皆様に参りいただけるように毎年工夫を重ねながら頑張っています。

2人の息子も、本願寺の特別法

務員の資格を得て読経も任職より

上手になりました。皆さんでお勤

めする時もこちらでリードします

のでご心配はありません。息を大

きく吸い込んで、お経を上げるの

はとても気持ちの良いものですよ。

また、御法話をいただく先生

は、一昨年御出講いただきました

本持先生です。楽しくためにな

るお話をお聴聞いたしましたよ。

おいでになつたら、どうぞ他の御門徒様ともお話をしてみたい、思わぬ共通点を見つけたら、楽しいお話が出来ると思います。

是非ともお参りいただきましたいと切に思ってお待ち申し上げます。

教誓寺維持会費

について 再

本年度も維持会費をご納入下さり有り難うございます。これからの方も早めにお願ひ致します。



前号の答え

お墓の水場の近くに、鉢の蓮の葉が開く時にこんな形が見られます。このハートが開くとまん丸の蓮葉になります。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
10810073

東京都港区三田 一十二一十一

〇三(三四五)二三九

Kyousei.ji@js4.so-net.ne.jp
